

平成 21 年度後学期「現代経済の諸問題」

Glossary（期末試験に備えて（意味を分かった上で）暗記すべき項目）

1 月 14 日掲載（11、12 については変更の可能性あり）

1 「イントロダクション」

総務省統計局「労働力調査」について

- どのような調査か。
- 「従業者」、「休業者」、「就業者」、「完全失業者」、「労働力」、「非労働力」の定義。
- 「労働力率」の定義。

2 「労働需要の基礎モデル」

「労働需要の（賃金）弾力性」の定義。

3 「労働需要の基礎モデルの応用」

「可変調整費用」、「固定調整費用」とは何かの説明。

4 「採用政策と逆選択」

「資本と必要技能との関係」の文脈における「留保賃金」の定義。

人材を「オプション価値」として捉える考え方についての説明。

5 「労働供給の基礎モデル」

「労働供給問題」の文脈における「留保賃金」の定義。

「労働供給の（賃金）弾力性」の定義。

6 「労働供給の基礎モデルの応用と拡張」

なし。

7 「家族の経済学のその他の話題」

「現在価値」の定義。

8 「実証分析の考え方（前半）」、9 「実証分析の考え方（後半）」

（純粋実験における）「トリートメントグループ（実験群）」と「コントロールグループ（対照群）」の定義。

「差の差を取る」ことの意味。

観察データの持つ問題点

1. 観察不可能な要因と、観察可能な変数との相関
「上方バイアス」、「下方バイアス」
2. サンプルセレクションバイアス
の内容を説明できるようにする。

「ナチュラルエクスペリメント」の3つの条件。

「ナチュラルエクスペリメントからのパネルデータによる差の差推定」

「パネルデータによる固定効果モデル推定」

「双生児データによる固定効果モデル推定」

「クロスセクショナルデータによる操作変数推定」

の内容と問題点。

「個票データ」と「集計データ」の違いは何か。

「ルーカス批判」とは何か。

「構造推定アプローチ」とは何か。

10 「均衡分析」

「生産者余剰」、「労働者余剰」を図示して説明。

11 「動学分析(1) 人的資本投資(1)」、12 「動学分析(1) 人的資本投資(2)」

「教育の限界収益率」の定義。

賃金の実証モデルにおける

1. 観察不可能な要因と、観察可能な変数との相関
 2. サンプルセレクションバイアス
 3. (古典的) 測定誤差バイアス
- の内容を説明できるようにする。

賃金の実証モデルにおける

「パネルデータによる固定効果モデル推定」

「双生児データによる固定効果モデル推定」

「ナチュラルエクスペリメントからのパネルデータによる差の差推定」

「クロスセクショナルデータによる操作変数推定」

の内容を説明できるようにする。

「一般的人的資本」と「企業特殊的人的資本」との違い。

「セルフセレクション」の内容を説明できるようにする。